

二〇 天明五年十一月 吾妻郡蟻川村有川家あて日本鍛冶宗匠

保証状〔A〕

覚

其許祖父そのもと已来いらいならび并びニ父ちち「若狭守政吉、当時貴殿共、」三代此方弟子ニ而を「御即位御用之節者、代々致ニ上京一相動来候、仍レ之家職」之儀ニ付候而者、当家前々方仕来候通ニ可レ被ニ相心得候事一不淨・穢汚之具、何ニ「よらす取扱申間鋪、勿論」刑罪之具等、堅く可レ為ニ禁制候事

一近來於きやうとニ京都、清水平兵衛「与申者」御公儀御用之儀申立、運上「銀之儀願上、鍛冶一統致ニ」出銀候得共、「御即位御用并日本鍛冶」宗匠御免許之旨申立、「此方弟子之分者、不レ残出銀」御免除有レ之候、尤此方「諸役御免除之御牌」頂戴仕罷在候、以上

天明五巳霜月

日本鍛冶宗匠

伊賀守 金道印

有川浪右衛門殿